

5分でわかる 部門別原価計算の教科書



※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。
※当資料は、2026年1月時点の内容となっております。最新の情報は国の資料等をご確認ください。

5分でわかる部門別原価計算の教科書

Ⅰ 部門別原価計算の定義と基本構造

部門別原価計算とは

製造間接費を製品ごとではなく、まずは「部門（計算区分）」ごとに集計して配賦を行う会計プロセスのことです。

目的は製品ごとの原価計算をより正確に行い、部門ごとの原価管理を適正化することです。

部門別原価計算における部門と費用の分類

原価を集計する器として、以下の区分を設定します。

区分	内容	費用の分類
製造部門	組み立て・加工を直接行う部門	部門個別費（材料費など）
補助部門	修繕・事務など製造を支える部門	部門共通費（光熱費など）

5分でわかる部門別原価計算の教科書

部門別原価計算の配賦手法

- ・直接配賦法：補助部門の費用を直接、製造部門のみに割り当てる簡便な方法。
- ・相互配賦法：補助部門間のやり取りも考慮し、2段階で配賦する正確な方法。

部門別原価計算を完遂する手順

ステップ1：原価部門の設定

「製造部門」と「補助部門」を明確に定義し、計算の枠組みを作ります。

ステップ2：部門費の集計（第1次集計）

各部門で発生した費用を集計します。部門個別費はそのまま計上し、共通費（減価償却費等）は適切な基準で各部門に振り分けます。

ステップ3：補助部門費の配賦（第2次集計）

補助部門に集計された費用を、配賦基準（作業時間等）に基づき製造部門へ配賦します。

ステップ4：製造部門費の製品（仕掛品）への配賦

最終的に、製造部門に集まった合計費用を、各製品（製造指図書）に配賦して完成です。

5分でわかる部門別原価計算の教科書

| 部門別原価計算のメリットとデメリット

部門別原価計算を導入するメリット

- ・**正確な原価管理**：拠点・部門ごとのコストが可視化され、無駄の特定や削減が容易になります。また、従業員のコスト意識向上にもつながります。
- ・**予算策定の精度向上**：自部門以外の配賦経費も加味した計画が立てられるようになり、企業利益を追求する意識が育まれます。

部門別原価計算のデメリットと解決策

計算の複雑さや、配賦基準の適切性が運用のハードルとなります。

5分でわかる部門別原価計算の教科書

デメリット（課題）	内容	解決策の方向性
配賦基準の設定	売上や人員数など、適切な基準選びが困難	妥当性の高い基準の明確化
計算の複雑化	手作業ではミスや膨大な業務負荷が発生	原価管理システムの活用
部門間の不公平感	配賦により一部の部門が赤字になるリスク	全社最適の視点での意識共有

部門別原価計算のデメリットである「計算負荷」は、システムの自動化により解消可能です。正確な数値に基づき、迅速なコスト削減策や経営判断へ注力できる体制を構築しましょう。